

◆ 「チャイルドラインほっかいどう」 15年の主な取り組み

- 2003年2月 チャイルドラインさっぽろ設立準備会結成
5月 「2003 こどもの日全国キャンペーン」に特設団体として3日間参加
7月 「チャイルドラインさっぽろ」設立総会開催（任意団体）
8月 「第1期受け手養成研修」実施 ※以降06年度を除き毎年実施
- 2004年7月 道内初の子ども専用電話「チャイルドライン」を開局（電話番号 011-272-3755）
12月 NPO法人設立総会を開催（翌年2月28日認証書受領）
- 2007年10月 「さっぽろ」独自のフリーダイヤル（0120-7-26266）実施
- 2008年6月 設立5周年記念講演会開催
「札幌市子どもの権利を考える」（講師）弁護士 江本秀春さん
- 2009年5月 チャイルドライン全国ネットワークに参加
（フリーダイヤル番号を全国共通の0120-99-7777に変更）
- 2013年1月 「認定NPO法人」資格取得
11月 設立10周年記念式典開催
記念講演「電話から見える子どもたち」～チャイルドラインの意義と課題
講師 NPO法人チャイルドライン支援センター代表理事 太田久美さん
- 2014年4月 北海道日本ハムファイターズ・ファイターズ基金のカード贈呈式
この年から小中学生用カード（2種類）の作成支援始まる
12月 子ども専用電話回線を増設（2回線）
- 2016年12月 チャイルドライン北海道東北エリア会議を札幌で開催
- 2017年5月 法人名を「特定非営利活動法人チャイルドラインほっかいどう」に変更
7月 北海道新聞社から高校生用カードの作成支援始まる
11月 公益財団「社会貢献財団」から表彰と副賞を受ける

《公開講座等の開催》

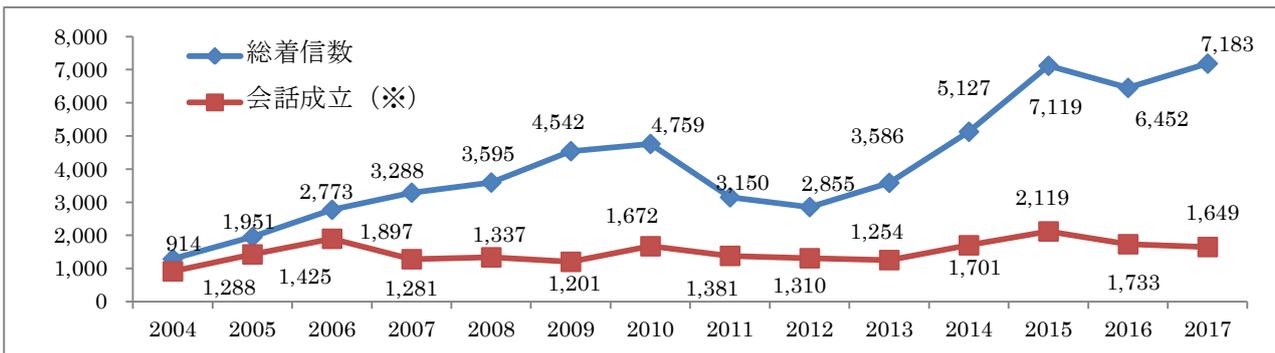
- 2007年2月 チャイルドラインさっぽろフォーラム開催
「聞こえていますか？子どもの声」
講師 NPO法人チャイルドライン支援センター代表理事 清川輝基さん
- 2008年7～8月 公開講座 統一テーマ「子どもたちからのメッセージ」（4回開催）
- 2015年4月 公開講座「生きづらさを抱える子どもたちの理解と支援」
講師 クリニックむすびば院長 田中康雄さん
- 2018年3月 公開講座「今の子どもたち」～貧困・思春期・LGBT～
講師 NPO法人チャイルドライン支援センター理事 金子由美子さん

【電話受信状況】

「チャイルドラインほっかいどう」にかかってきた受信件数と会話成立件数の推移は下記のグラフの通りです。電話番号は、2004年7月から2007年9月までは有料の固定電話（011-272-3756）で、2007年10月から2009年4月までは独自のフリーダイヤル（0120-7-26266）、2009年から現在までは全国共通のフリーダイヤル（0120-99-7777）としています。開設時間は、開設以来、毎週の月曜と水曜で、現在の全国共通番号は毎日の午後4時から9時まで（今年3月までは毎週月～土曜の午後4時から9時）となっても同様の開設としています。

また、各年度の開設日数と、「受け手」「支え手」の従事者数は表1の通りです。

【グラフ「総着信数・会話成立件数の年度別推移」】



注1…2004年度は7月～翌年3月まで。その他は4月～翌年3月までの件数です

注2…「会話成立件数」の算出方法は、2006年度までは「総着信数」から「無言」の件数を引き、2007年度以降は、「無言」のほか「お話し」「すぐ切れた」「一言・意味不明」「問い合わせ・お礼」の件数も引くこととしています。

【表1「受け手・支え手のシフト状況」】

年度	開設日数	受け手	支え手	合計	年度	開設日数	受け手	支え手	合計
2004年度	76日	392人	155人	547人	2011年度	97日	413人	188人	601人
2005年度	101日	540人	220人	760人	2012年度	102日	444人	210人	654人
2006年度	99日	517人	198人	715人	2013年度	92日	425人	195人	620人
2007年度	105日	461人	211人	672人	2014年度	92日	614人	182人	796人
2008年度	105日	475人	205人	680人	2015年度	90日	539人	188人	727人
2009年度	104日	469人	205人	674人	2016年度	95日	626人	189人	812人
2010年度	102日	444人	210人	654人	2017年度	95日	669人	187人	856人

注1…2004～2006年度は「子どもの日チャイルドライン」全国キャンペーン等の参加分は除く

注2…2013年度からは、平日の月曜と水曜を開設日とした

注3…2014年12月から、原則2回線とした

【養成研修等の開催】

チャイルドラインでは、子どもからの電話を受けるには「受け手養成研修」を修了し、その後の「インターン研修」に進んだあと、「受け手」と認定されて初めて受けることができます。その後も「継続研修」を受けながら、子どもの気持ちに寄り添う学びを続けていますが、養成研修・インターン研修の開催状況は表2の通りです。

【表2「受け手養成研修・インターン研修の開催状況」】

期	養成研修開催期間	受講者	修了者	インターン研修開催期間	受講者	修了者
1	2003.8～2004.4	40	34	2004.5～2005.4	34	24
2	2004.7～2005.4	18	12	2005.5～2006.4	12	8

期	養成研修開催期間	受講者	修了者	インターン研修開催期間	受講者	修了者
3	2005. 7～2006. 4	19	15	2006. 5～2007. 4	15	12
4	2007. 7～2007. 11	13	8	2008. 1～2009. 1	8	6
5	2008. 9～2009. 3	12	12	2009. 4～2010. 3	12	8
6	2009. 7～2010. 3	12	9	2010. 5～2010. 8	10	8
7	2010. 7～2010. 11	31	26	2011. 1～2011. 6	24	17
8	2011. 7～2011. 11	7	7	2012. 1～2012. 6	8	6
9	2012. 7～2012. 11	10	8	2013. 1～2013. 6	8	6
10	2013. 7～2013. 11	31	22	2014. 1～2014. 6	22	19
11	2014. 7～2014. 9	3	2	2014. 11～2015. 4	2	2
12	2015. 7～2015. 12	19	17	2016. 1～2016. 6	16	16
13	2016. 7～2016. 12	16	15	2017. 1～2017. 6	15	13
14	2017. 7～2017. 12	21	17	2018. 1～2018. 6	17	15
15	2018. 8～2018. 12	7				

【カード等の配布】

子どもたちにチャイルドラインを知ってもらおうと、電話番号や開設時間等を記載したカード等を配布している。配布に当たっては、北海道教育委員会と札幌市をはじめとする道内各教育委員会に依頼していた、学校を通して配布している。カードでは、小中学生用カードでは2014年度から北海道日本ハムファイターズ・ファイターズ基金が、高校生用カードでは2017年度から北海道新聞社の作成支援を受けている。

【表3「カード等の配布状況」】

	カード（配布地域）	ポスター	配布時期	備考
2004年度	20万枚（札幌市、恵庭市、石狩市、当別町の小中学校・札幌市児童会館）	650枚	6月	札幌ライオンズクラブ（株）吉プロからの支援
2005年度	22万枚（札幌市、江別市、北広島市の小中学校、札幌市児童会館）	550枚	6月	
2006年度	30万枚（石狩管内の小中学校、札幌市の全児童会館）	500枚	6月	
2007年度	30万枚（石狩管内の小中学校、札幌市の全児童会館）	500枚	10月	独自フリーダイヤル化によりデザインを刷新
2008年度	15万枚（札幌市の小中学校）	300枚	10月	
2009年度	45万枚（渡島、檜山を除く全道の小中学校、札幌市の全児童会館）	2000枚	4～12月	全国チャイルドラインネットワークによる共通番号の開始
2011年度	45万枚（同上）	2000枚	6月	
2012年度	45万枚（同上）	2000枚	10月	
2013年度	45万枚（同上）	2200枚	10～12月	
2014年度	47万枚（道内すべての小中学校、札幌市の全児童会館）	300枚 ※札幌のみ	7月	北海道日本ハムファイターズ・ファイターズ基金の支援
2015年度	46万枚（道内すべての小中学校、札幌市のミニ児を除く児童会館）	2200枚	7月	
2016年度	45万枚（道内すべての小中学校） ※道内の盲学校に点訳カード配布開始	2500枚 ※高校にも	8～11月	ろう学校にオンライン相談ポスターを配布
2017年度	56万枚（道内すべての小中学校、高校、特別支援学校、ミニ児を除く児童会館）	2700枚	8～11月	高校生用カードで北海道新聞社から支援
2018年度	57万枚（同上）※予定			

【その他の活動】

◆チャイルドライン・シーバルク

子どもたちと遊ぶという生のふれあいをすることで、チャイルドラインの本来の目的である「子どもの夢と希望を共に育み明るい未来に寄与すること」を目指し、シーバルクを開催してきた。シーバルクとは農業用のビニールシートを貼り合わせ、風船のように膨らませて作る「空気のオブジェ」、中の見えるテントになっている。そして様々な形のテントを迷路のようにつなぎ、その中で、鬼ごっこをしたり、風船を飛ばしたり、大人も子どもも楽しく遊べるとても不思議な空間である。チャイルドラインと名前の入った12メートルのタワーもある。開催状況は、下記の通り。

・「2007シーバルク・さっぽろ」

(開催日) 制作・研修 10月27日(土) 北星学園大学体育館
一般公開 10月28日(日) 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ
(参加人員) 一般参加者 525人
ボランティア等・(制作・研修従事者) 87人／(当日のお手伝い) 103人
(後援等) 独立行政法人福祉医療機構による助成と、35企業・団体のほか多くの個人から寄付を受けた。また、札幌市や市PTA協議会、マスコミ各社から名義後援を得た

・「2008シーバルク・さっぽろ」

(開催日) 制作・研修 11月8日(土) 北星学園大学体育館
一般公開 11月9日(日) 北星学園大学体育館
(参加人員) 一般参加者 538人
ボランティア等・(制作・研修従事者) 31人／(当日参加) 46人
(後援等) 北海道新聞社会福祉振興基金による助成と位、18企業・団体のほか多くの個人から寄付を受けた。また、札幌市や市PTA協議会、マスコミ各社から名義後援を得た

・「2010シーバルク・さっぽろ」

(開催日) 10月24日(日) アウ・クル体育館 中央区南8条西2丁目
(参加人員) 一般参加者 459人(大人179人・子ども280人)
ボランティア等(23日準備) 31人／(開催当日) 33人
(後援等) さっぽろスマイルキッズ(財団法人札幌市青少年女性活動協会)日本アムウェイ他多くの企業・個人から寄付を受けた。また、札幌市や教育委員会マスコミ各社からの名義後援を受けた。

◆チャイルドライン「応援色紙」

「チャイルドラインさっぽろ」の存在を大人の人に知っていただくため、北海道出身または北海道を中心に各方面にて活躍されている方々に、理解と協力を得て、「チャイルドラインさっぽろ応援色紙」にサインと子どもたちへのメッセージを書いていただくことでチャイルドラインの活動を広く一般の人たちへ広げる機会と位置付け、2008年9月より協力依頼を開始しました。

2008年から2010年の3年間の企画とし、子どもたちへの暖かな応援メッセージとサイン色紙を最終的に91名89枚の協力を頂きました。高橋はるみ北海道知事、上田文雄札幌市長はじめ民報各テレビ局アナウンサー、札幌交響楽団コンサートマスター、コンサドレー選手、毛利衛氏、いがらしゆみこ氏など多数の協力を頂き、下記の企画時に展示しました。また、その期間は、ホームページにも公開していました。

【財政状況】

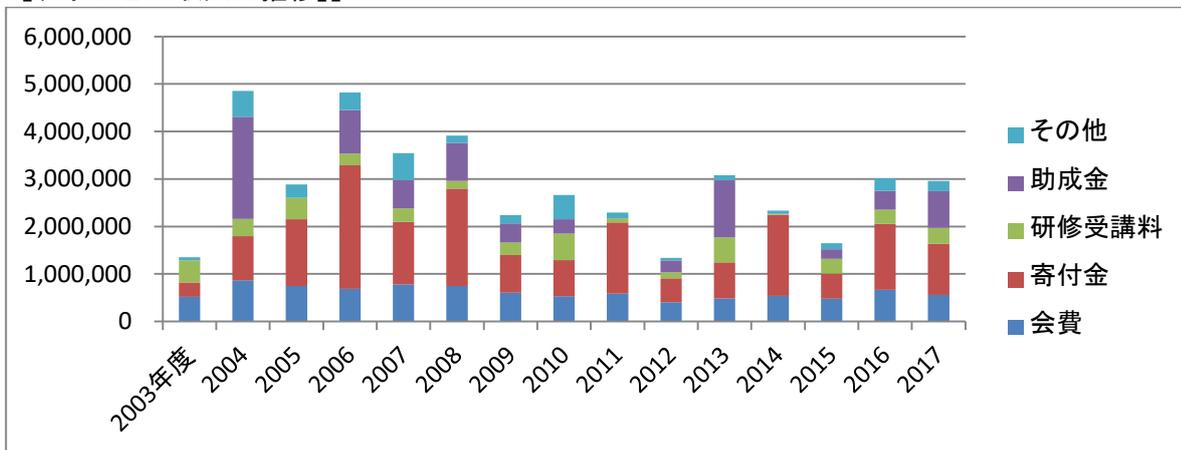
2003年の設立以降、各年度の収支状況は表4に、同収入の主な内容はグラフ2に、各会費収入の推移はグラフ3の通りとなっている：

【表4 「収入額・支出額の推移」(各年度決算書より)】

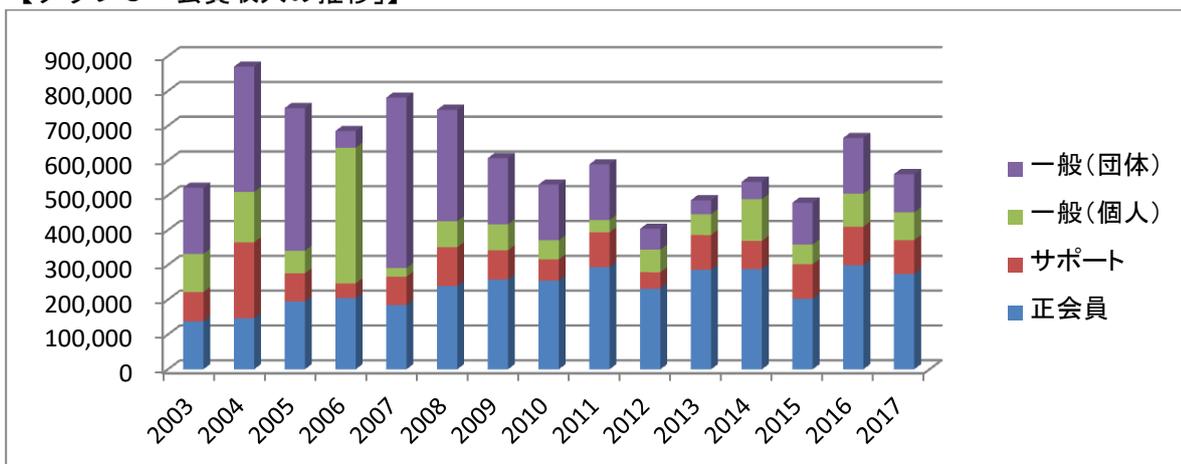
	2003年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
収入額	1,354,910	4,855,026	2,884,504	4,822,197	3,579,085	3,911,872	2,241,923	2,662,229
支出額	936,344	4,298,862	2,594,747	4,594,812	3,540,245	3,811,314	2,255,512	2,024,531
収支差引	418,566	556,164	289,761	227,385	38,840	100,558	▲ 13,589	637,698
正味財産	前期残高は次年度収入に「繰越金」として計上					1,154,355	1,140,766	1,778,464

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
収入額	2,292,608	1,341,948	3,081,642	2,331,399	1,649,354	3,015,882	2,959,976
支出額	2,171,657	2,489,141	3,382,058	1,683,202	2,050,443	2,218,840	2,819,770
収支差引	120,951	▲ 1,147,193	▲ 300,416	648,187	▲ 401,089	797,042	140,206
正味財産	1,899,415	752,222	451,806	1,100,003	698,914	1,495,956	1,636,162

【グラフ2 「収入の推移」】



【グラフ3 「会費収入の推移」】



◆助成金と寄附金

「チャイルドラインほっかいどう」の事業費のほとんどは会費収入のほか助成金と寄附金で賄われている。とくに「さっぽろ」設立時の研修費用やカード・ポスターの作成・印刷費、電話室の確保にかかる費用は、独立法人医療福祉機構などの助成金と、札幌ライオンズクラブからの寄附金で賄われた。

【助成金】

各種の基金などが設けて助成金に対し申請しているが、選考された助成金交付はつぎのとおり。

(2004年度)

- ・ 独立法人福祉医療機構 200万円 (子ども電話開設事業)
- ・ 北海道労働金庫・社会貢献助成 15万円 (子ども電話開設事業)

(2006年度)

- ・ 北海道新聞社会福祉振興基金 42万円 (カード等配布事業費)
- ・ 財団法人 コープさっぽろ社会福祉基金 5万円
- ・ NPO越智基金 20万円
- ・ 財団法人 大和証券福祉財団 30万円 (研修事業費)
- ・ NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド (ドコモ市民活動団体への助成) 25万円 (「チャイルドラインさっぽろフォーラム」開催費)

(2007年度)

- ・ 財団法人ソロプチミスト日本財団 (推薦クラブ・国際ソロプチミスト札幌フレンズ) 50万円
- ・ 株式会社NTTドコモ北海道 30万円 (札幌独自のフリーダイヤル実施協賛支援金)

(2008年度)

- ・ 独立法人福祉医療機構 162万6千円 (2008シーバルクさっぽろ開催事業費)
- ・ 株式会社NTTドコモ北海道 30万円 (札幌独自のフリーダイヤル実施協賛支援金)

(2009年度)

- ・ 株式会社NTTドコモ北海道 30万円 (札幌独自のフリーダイヤル実施協賛支援金)
- ・ 札幌市市民まちづくり活動促進助成金 10万円 (研修事業費)
- ・ 札幌市市民まちづくり活動促進助成金 10万円 (フリーダイヤル化周知事業費)

(2010年度)

- ・ 北海道新聞社会福祉振興基金 50万円 (2010シーバルクさっぽろ開催事業費)
- ・ 財団法人札幌市青少年女性活動協会・さっぽろスマイルキッズ 10万円 (2010シーバルクさっぽろ開催事業費)

(2012年度)

- ・ 札幌市市民まちづくり活動促進助成金 25万円 (研修事業費)
- ・ 札幌市市民まちづくり活動促進助成金 10万円 (カード等配布事業費)

(2013年度)

- ・ 札幌市市民まちづくり活動促進助成金 60万円 (設立10周年記念事業費)
- ・ 北海道新聞社会福祉振興基金 50万円 (カード等配布事業費)

(2015年度)

- ・ 北海道労働金庫「ろうきん社会貢献助成」 20万円 (カード配布事業)

(2016年度)

- ・ 北海道新聞社会福祉振興基金 40万円 (カード等配布事業費)

(2017年度)

- ・ 赤い羽根共同募金会 50万円 (カード等配布事業費)
- ・ 北海道新聞社 27万円 (カード等配布事業費)

(2018年度)

- ・ 公益財団法人 太陽財団 30万円 (設立15周年記念事業)
- ・ 越智基金・市民活動支援基金 7万円 (カード等配布事業費)

【寄付金】

札幌ライオンズクラブからは、設立時から現在まで定期的に物心両面にわたり支援していただいている。また、チャリティコンサート開催時の100万円など記念事業の際にも高額寄付を受けている。

高額寄付金では、継続して提供のある札幌勤労者企業組合のほか、全労済北海道本部や国際ソロプチミスト札幌フレンズ、チャイルドラインはこだて、認定NPO法人ランナーズクラブ北海道、リコー社会貢献クラブ、札幌インナーホイールクラブ、2017年には社会貢献財団から表彰され副賞50万円を頂戴している。また、カード配布等では全労済北海道本部、北海道労働金庫、連合北海道、北海道教職員組合から、さらにイオン北海道の「黄色いレシートキャンペーン」をはじめ、多くの団体・個人から寄付を頂戴している。